

保育関連動画の視聴経験および視聴目的にみる保育者志望学生の 学習活動の現状

— 動画配信サービス「YouTube」に着目して —

境 愛一郎¹・伊藤 優²

Current status of learning activities of students who want to become ECCE teachers based on viewing experience and purpose ECCE-related video

— Focusing on the video streaming service YouTube —

Aiichiro SAKAI¹, Yuu ITO²

Abstract: The purpose of this study is to clarify the viewing purpose and contents of early childhood care and education (ECCE)-related videos on the video streaming service YouTube by students who want to become ECCE teachers and to capture their learning situations and needs. A questionnaire was distributed to 1,223 students from junior colleges and four-year colleges in Japan asking about their experiences viewing ECCE-related videos, the reasons for viewing them and their content, etc. Responses were received from 921 students. An analysis of these results revealed that approximately 87% of respondents had some prior experience watching ECCE-related videos, and many of them watched videos explaining and introducing fingerplays and similar techniques for reasons such as preparing class assignments and preparing for practical training. This tendency became more pronounced as they advanced in school and gained practical training experience. ECCE-related videos may substantially support students' learning activities, with a focus on practical skills.

Key words: ECCE-related videos, teacher training, video streaming service, YouTube

I. 問題と目的

1. デジタル化する保育者志望学生の学習活動

大学生等の生活において、インターネットコミュニケーションツールや動画配信サービスはもはや不可欠な存在といえる。東京工業大学が新入生を対象に継続的に実施する調査(2022)では、2021年度入学者のほぼ全員が「LINE」や「Instagram」といったSNSを利用していることが明らかとなった。また、動画配信サービスについては「YouTube」の利用率が調査史上最高の99%に達し、そのシェアを盤石なものとしている。

学生生活と以上のようなツール、サービスの

関係性は、2019年末頃より生じた新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一層深まった。2021年6月時点の調査では(日経BPコンサルティング, 2021)、大多数の高等教育機関で「Zoom」等の双方向型ビデオ通話ツールを用いたオンライン授業の実施が確認されている。また、受講者が任意のタイミングで聴講可能なオンデマンド授業の配信も開始された。保育者養成分野でも、オンラインプラットフォーム上に文章と写真を投稿する活動を主体とする協働造形演習(橋本, 2021)、ビデオ会議システム等を用いた弾き歌い指導(葛西, 2021)、非対面で手遊び動画を作成する授業(高橋ら, 2022)、「YouTube」を通じた演奏模範動画の配信(扶瀬, 2021)などの実践が報告されている。コロナ禍により、学生にとってのSNSや動画配信サー

1 共立女子大学

2 広島大学大学院人間社会科学研究科

ビスは、大学等での学習活動を進めるうえでも必需品になったといえる。

オンライン授業等は、大学などが授業の一環として発信する公的なものであり、学習者が触れる情報は、教員によって選別・管理されている。他方で、SNSや動画配信サービスには、多種多様な個人や団体が参加しており、膨大かつ玉石混交する情報が配信されている。したがって、各種ツール、サービスを日常的に利用する学生らは、大学等が配信するもの以外にも、自身に関心を寄せる分野の情報を取得し、学習活動に反映していると考えることが妥当である。実際に、90%以上の学生が、手遊びについて調べる際に「YouTube」等を利用していることがわかっている（長峰, 2020）。

以上のような管理されない情報は、信頼性の観点から問題視されることも少なくない。萩原ら（2021）は、「YouTube」上に存在する脳卒中のリハビリテーションに関する167本の動画の内容を、医療情報の信頼性評価尺度により評価した。その結果、ほとんどの動画に情報源の記載がない、治療に伴うリスクの説明がないといった問題が指摘できることを明らかにした。保育者志望学生の学習活動に関連し得る動画については、手遊び動画を対象とする研究がみられ、非専門家による音程やリズムが崩れた動画が散見されること（長峰, 2020）、対面的なやりとりを介さずに歌の伝承と変形が生じること（児嶋, 2021）が危惧されている。ただし、同研究では、「YouTube」等が学生にとって身近かつ有力な情報源である点も改めて確認されている。

以上のように、養成校と現場によって大部分が担われてきた保育の専門的情報の伝達形態が変容しつつある。今日の保育者を目指す学生の学習状況やニーズを把握し、適切な学習支援を図るといった観点からも、彼らがインターネット上でどのような情報を取得し、活用しているかを明らかにする意義は大きい。しかし、現状確認できる知見は、上記の手遊び歌に焦点化した研究に留まるため、より広範な検討が必要である。

2. 研究目的

本研究の目的は、保育者志望学生に対する質問紙調査から、「YouTube」上の保育関連動画全般に関する彼らの視聴経験と視聴目的を明らかにし、その学習活動の在り方やニーズを捉えることである。合わせて、実習経験や学校種・

学年との関連についても検討する。

「YouTube」に焦点化する理由は、動画配信サービスとして最も学生の利用率が高く（東京工業大学, 2022）、授業の教材配信に使われる（扶瀬, 2021）など保育の専門知識・技能の伝達に適う仕様であること、官民間問わず幅広いユーザーからの保育関連動画の投稿がみられること（長峰, 2020）である。また、本研究では、保育関連動画を①保育者に必要な知識・技能、②保育計画や教材作成に関する知識・技能、③各施設の特徴や実践、④保育者の実体験や私生活、⑤そのほか保育・子育て支援関連の情報を含む動画と定義する。設定過程は次章で述べるが、以上のような広い定義を用いることで、特定の用途に限らず学生の視聴経験を捉えることを目指す。

II. 研究方法

1. 研究協力者

機縁法により抽出した短期大学2校、四年制大学3校の保育士、幼稚園教諭の養成を目的とする学科やコースに属する学生1,223名（短期大学600名、四年制大学623名）に質問紙を配布した。うち、回答が得られた921名（回答率75.3%）を研究協力者とする（表1）。

表1. 研究協力者一覧

	学年	人数	小計	計
短期大学	1年	255	510	921
	2年	255		
四年制大学	1年	137	411	
	2年	137		
	3年	102		
	4年	35		

2. 質問紙調査の方法

(1) 調査の実施方法

Google フォームで電子質問紙を作成し、協力者らが集まる授業等でQRコードを提示して回答を依頼した。同時に、フォームのQRコードとURL、調査の趣旨や配慮事項を記載した依頼状を配布した。

調査は2021年6月から12月かけて実施した。うち短大1年生、四大1年生については、比較のために現場実習未経験者が存在するタイミングで調査を行った。回答期限は、原則依頼日から一週間以内とした。

(2) 質問紙の内容

学校種、学年、実習経験の有無を尋ねるフェイスシートに続き、保育と無関係の動画を含んだ「YouTube」全体の視聴経験（「まったくない」から「とてもある」の5件法）、一日当たりの視聴時間（0時間から3時間超まで6段階）について尋ねた。

次に、保育関連動画に関して、視聴経験程度、視聴理由、視聴動画の内容を問う項目を設けた。視聴理由と視聴内容については、保育関連動画の視聴経験を広く捉えるため、あらかじめ用意した選択肢で該当するものすべてをあげるチェックリスト形式を採用した。加えて、印象的なチャンネル名（投稿者名）と理由を自由記述形式であげてもらった。

選択肢の作成にあたっては「YouTube」上で「保育」というキーワードで動画検索を行い、「視聴回数」と「関連度順」でソートをかけた際に上位100までに表示される動画のタイトルからブレンストーミングの要領で候補を案出していった。表示された動画は、保育士を名乗る個人の作品から園や自治体によるもの、企業や学術団体によるものと多様であり、動画の内容は、手遊び等の紹介から理論的解説、労働環境の告発といえるものまでが存在した。それらを可能な限り網羅できるよう留意し、最終的に視聴理由として13項目、視聴内容として20項目の選択肢を作成した（表2、表3）。これら項目を整理したものが、目的で示した本研究の保育関連動画の定義であり、質問紙の冒頭でも説明した。なお、本研究の目的に照らして、養成校の授業中に放映された動画、課題として一律に視聴を促された動画は視聴経験に含まないこととした。

(3) 倫理的配慮

質問紙は無記名とし、個人情報の収集は最小限に留めた。調査の際は、口頭と依頼状、質問紙冒頭で研究目的、データの取り扱い方について説明を行い、回答をもって研究協力を承諾するものと明記した。また、各協力校の規定に照らし問題がないことを確認した。

(4) 分析の方法

回答を集計し、うち保育関連動画の視聴経験の程度、視聴理由、視聴内容については、学校種・学年（独立変数）による差を検討するため、回答を得点化（従属変数）したうえでSPSS（Ver.27）を用いて一要因の分散分析と多重比較（Tukey法）を行う。さらに、実習経験の有無による回答の比率差を明らかにするため、変数

表2. 保育関連動画の視聴理由に関する選択肢

1. 趣味、興味関心のため
2. 自己学習のため
3. 授業の予習・復習のため
4. 授業の課題作成のため
5. 教材作成のため
6. 実習対策のため
7. 進路選択のため
8. 流行に乗り遅れないため
9. コメントの投稿・閲覧のため
10. モチベーションの維持・向上のため
11. 悩みや不安を解消するため
12. 特定の配信者・チャンネルをみるため
13. その他

表3. 視聴した保育関連動画の内容に関する選択肢

1. 子どもの発達や学習についての解説
2. 保育の制度や政策についての解説
3. 保育施設の特徴や実践の紹介
4. 地域の保育・子育て支援に関する情報
5. 教材作成や壁面構成の解説・紹介
6. 手遊びの解説・紹介
7. 運動遊びやごっこ遊びの解説・紹介
8. 製作活動に関する解説・紹介
9. 歌や楽器に関する解説・紹介
10. 絵本や読み聞かせに関する解説・紹介
11. 行事の内容や計画の解説・紹介
12. 資格試験に関するアドバイス
13. 育児・子育て情報
14. 就職・進路に関する情報
15. 保育・子育て関連の商品紹介
16. 保育者の体験談
17. 保育者の私生活について
18. 保育者の労働環境について
19. 保育を題材とした映画・テレビ番組
20. その他

ごとにt検定または統計WEBの自動計算フォーム（<https://bellcurve.jp/statistics/blog/13953.html>）を用いた検定を行う。

自由記述項目は、配信者の属性や内容を表すコードとして整理し、回答を集計する。そのうえで、各チャンネル・動画をあげた理由に関する記述を検討する。

Ⅲ. 結果と考察

1. 協力者属性と「YouTube」全般の視聴経験
協力者のうち、1回以上保育現場での実習経験がある者は613名（66.6%）、実習未経験の者は308名（33.4%）であった。

「YouTube」全般の視聴経験の程度は、「ある」

表4. 学校種・学年別の一日当たりの「YouTube」視聴時間

視聴時間	短大1年 n=255		短大2年 n=255		四大1年 n=137		四大2年 n=137		四大3年 n=102		四大4年 n=35	
	度数	比率	度数	比率								
視聴しない	17	6.7%	9	3.5%	12	8.8%	5	3.6%	2	2.0%	4	11.4%
30分未満	48	18.8%	55	21.6%	32	23.4%	22	16.1%	22	21.6%	5	14.3%
30分-60分	81	31.8%	86	33.7%	31	22.6%	44	32.1%	23	22.5%	9	25.7%
60分-120分	62	24.3%	72	28.2%	39	28.5%	37	27.0%	37	36.3%	10	28.6%
120分-180分	31	12.2%	20	7.8%	17	12.4%	20	14.6%	14	13.7%	4	11.4%
180分以上	16	6.3%	13	5.1%	6	4.4%	9	6.6%	4	3.9%	3	8.6%

表5. 学校種・学年別の保育関連動画の視聴経験

視聴経験の程度	短大1年 n=255		短大2年 n=255		四大1年 n=137		四大2年 n=137		四大3年 n=102		四大4年 n=35	
	度数	比率	度数	比率								
まったくない	30	11.8%	1	0.4%	17	12.4%	5	3.6%	0	0.0%	2	5.7%
ほとんどない	29	11.4%	0	0.0%	22	16.1%	1	0.7%	8	7.8%	1	2.9%
ある	137	53.7%	75	29.4%	79	57.7%	69	50.4%	45	44.1%	16	45.7%
まあまあある	39	15.3%	108	42.4%	11	8.0%	44	32.1%	31	30.4%	13	37.1%
とてもある	20	7.8%	71	27.8%	8	5.8%	18	13.1%	18	17.6%	3	8.6%

121名(13.1%),「まあまあある」176名(19.1%),「とてもある」556名(60.4%)と全体の約92.6%に一定以上の視聴経験があり,半数以上が「とてもある」と認識していた。「ほとんどない」は43名(4.7%),「まったくない」は25名(2.7%)であり,保育者志望学生の生活に「YouTube」が浸透していることがわかる。

一日当たりの視聴時間については,「30分以上から60分未満」273名(29.5%),「60分以上120分未満」258名(27.9%)が多く,学校種・学年を問わずこの層に半数以上の回答が集中していた(表4)。また,少数ではあるが,日に180分以上視聴する層も存在した。

2. 保育関連動画の視聴経験

全体では「まったくない」55名(6.0%),「ほとんどない」61名(6.6%),「ある」421名(45.7%),「まあまあある」241名(26.2%),「とてもある」138名(15.0%)と,約87%が「ある」以上の視聴経験を有していた。

以上を学校種・学年別に整理したものが表5である。ここから「まったくない」を1点,「とてもある」を5点と視聴経験の程度を5段階で得点化したもの(表6)を従属変数,学校種・学年を独立変数とした一要因の分散分析および多重比較(Tukey法)を行った。

分析の結果,学校種・学年間の視聴経験の程度の差は0.1%水準で有意であった($F(5, 915) = 45.567, p = .000$)。また, TukeyのHSD法(5%

表6. 学校種・学年別の視聴得点の平均値と標準偏差

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>min</i>	<i>max</i>
短大1年 (n=255)	2.96	1.026	1	5
短大2年 (n=255)	3.97	0.781	1	5
四大1年 (n=137)	2.79	0.966	1	5
四大2年 (n=137)	3.50	0.867	1	5
四大3年 (n=102)	3.58	0.872	2	5
四大4年 (n=35)	3.40	0.914	1	5

水準)による多重比較により,短大1年生と四大1年生が他群より視聴経験の程度得点が低く,各第二学年以上のなかでは,短大2年生で最も得点が高くなりやすいことがわかった。さらに,実習の有無による得点の差を分析したt検定では,実習有群で平均値3.64 ($SD = .905$),無群で平均値2.86 ($SD = 1.021$)で有意な差が認められた($t(919) = 11.775, p = .000, d = .822$)。これらのことから,保育関連動画の視聴経験の程度は各養成課程の進行あるいは,実習経験と関連して高まる可能性が考えられる。

3. 保育関連動画の視聴理由

保育関連動画の視聴理由に関する回答を整理した結果が表7である(選択肢は表2参照)。総回答者数は,視聴経験が「まったくない」者(55名)とデータに欠損がある者(25名)を除く841名である。全体として,保育関連動画の視聴理由は,「1. 趣味,興味関心のため」と「2. 自己学習のため」のほか,「4. 授業の課題作成

表7. 学校種・学年別の保育関連動画の視聴理由の度数・平均値・標準偏差

選択肢	短大1年 n=215				短大2年 n=249				四大1年 n=115				四大2年 n=131				四大3年 n=101				四大4年 n=30			
	度数	比率	M	SD	n	比率	M	SD	n	比率	M	SD												
1.	133	61.9%	0.62	0.487	101	40.6%	0.41	0.492	72	62.6%	0.63	0.486	48	36.6%	0.37	0.484	28	27.7%	0.28	0.450	10	33.3%	0.33	0.479
2.	66	30.7%	0.31	0.462	162	65.1%	0.65	0.478	32	27.8%	0.28	0.450	60	45.8%	0.46	0.500	52	51.5%	0.52	0.502	11	36.7%	0.37	0.490
3.	28	13.0%	0.13	0.337	21	8.4%	0.08	0.278	17	14.8%	0.15	0.356	22	16.8%	0.17	0.375	20	19.8%	0.20	0.400	3	10.0%	0.10	0.305
4.	56	26.0%	0.26	0.440	72	28.9%	0.29	0.454	33	28.7%	0.29	0.454	62	47.3%	0.47	0.501	68	67.3%	0.67	0.471	17	56.7%	0.57	0.504
5.	43	20.0%	0.20	0.401	175	70.3%	0.70	0.458	21	18.3%	0.18	0.388	94	71.8%	0.72	0.452	83	82.2%	0.82	0.358	25	83.3%	0.83	0.379
6.	43	20.0%	0.20	0.401	195	78.3%	0.78	0.413	7	6.1%	0.06	0.240	96	73.3%	0.73	0.444	78	77.2%	0.77	0.421	20	66.7%	0.67	0.479
7.	28	13.0%	0.13	0.337	19	7.6%	0.08	0.266	9	7.8%	0.08	0.270	14	10.7%	0.11	0.310	6	5.9%	0.06	0.238	3	10.0%	0.10	0.305
8.	0	0.0%	0.00	0.000	2	0.8%	0.01	0.089	0	0.0%	0.00	0.000	1	0.8%	0.01	0.087	0	0.0%	0.00	0.000	0	0.0%	0.00	0.000
9.	5	2.3%	0.02	0.151	5	2.0%	0.02	0.141	1	0.9%	0.01	0.094	3	2.3%	0.02	0.150	0	0.0%	0.00	0.000	0	0.0%	0.00	0.000
10.	16	7.4%	0.07	0.263	24	9.6%	0.10	0.296	4	3.5%	0.03	0.184	15	11.5%	0.11	0.320	4	4.0%	0.04	0.196	0	0.0%	0.00	0.000
11.	33	15.3%	0.15	0.361	61	24.5%	0.24	0.431	7	6.1%	0.06	0.240	32	24.4%	0.24	0.431	25	24.8%	0.25	0.434	7	23.3%	0.23	0.430
12.	15	7.0%	0.07	0.255	12	4.8%	0.05	0.215	5	4.3%	0.04	0.205	7	5.3%	0.05	0.226	2	2.0%	0.02	0.140	1	3.3%	0.03	0.183
その他	2	0.9%	0.01	0.096	1	0.4%	0.00	0.063	3	2.6%	0.03	0.160	0	0.0%	0.00	0.000	1	1.0%	0.01	0.100	0	0.0%	0.00	0.000

表8. 学校種・学年による保育関連動画の視聴理由の差

選択肢	要因	df	SS	MS	F 値	p	多重比較 (Tukey)
1.	クラスタ 残差	5 835	14.288 194.996	2.858 .234	12.237	.000**	短2≒短4≒四3≒四4<短1≒四1
2.	クラスタ 残差	5 835	18.427 190.151	3.685 .228	16.183	.000**	短1≒四1<四3≒短2, 短1≒四1<四2, 四2≒四4<短2
4.	クラスタ 残差	5 835	16.835 178.366	3.367 .214	15.762	.000**	短1≒短2≒四1<四2≒四4, 短1≒短2≒四1<四3, 四2<四3
5.	クラスタ 残差	5 835	60.699 149.082	12.134 .179	67.961	.000**	短1≒四1<短2≒四2≒四3≒四4
6.	クラスタ 残差	5 835	76.502 133.341	15.300 .160	95.813	.000**	四1<短1<短2≒四2≒四3≒四4
11.	クラスタ 残差	5 835	3.701 128.927	0.740 .154	4.794	.000**	四1<短2≒四2≒四3

**p < 0.1

のため」「5. 教材作成のため」「6. 実習対策のため」などの養成校での実技的学習を補助する目的に集中していることがわかる。また、「11. 悩みや不満を解消するため」といった理由も一定数みられる。他方、「8. 流行に乗り遅れないため」「9. コメントの閲覧・投稿のため」という理由で視聴する者は少数であり、「12. 特定の配信者・チャンネルをみるため」も該当者は1割に満たず、保育関連動画は主に学習上の課題解決のために視聴されていると考えられる。

視聴理由の学校種・学年による差を検討するため、項目別に選択ありを1点、選択なしを0点としたうえで、これを従属変数とした一要因の分散分析および多重比較 (Tukey) を行った (得点の平均値、標準偏差は表7)。その結果、6つの項目の群間差が0.1%水準で有意であった (表8)。さらに、多重比較では「1. 趣味、興味関心のため」は、各第1学年がその他の学年よりも得点が高い一方 ($F(5, 365) = 12.237, p = .000$)、学習行動であることが明確な「2. 自

己学習のため」については、各第1学年以外の学年で得点が高く、かつ短大2年生で最大となった ($F(5, 365) = 16.183, p = .000$)。「4. 授業の課題作成のため」「5. 教材作成のため」「6. 実習対策のため」といった授業や実習と関連した理由についても、基本的に各第1学年よりも上の学年で得点が高い傾向がみられた。ただし「4. 授業課題の作成のため」に関しては、短大2年生より四大2年生以上で高かった ($F(5, 365) = 15.762, p = .000$)。また、「11. 悩みや不安を解消するため」では、四大1年生よりも同2年生と3年生、短大2年制の得点が高いという結果が得られた ($F(5, 365) = 4.794, p = .000$)。

実習経験の有無による回答の比率差の分析結果は表9である。表8と同様の6項目で度数の偏りがみられた。「1. 趣味、興味関心のため」の視聴は実習無群で割合が高くなる ($z = 4.758, p = <.01$)。そのほかの選択肢は、一貫して実習有群で度数が高くなっており、なかでも「5. 教材作成のため」($z = 12.791, p = <.01$)と「6.

表9. 実習経験の有無による視聴理由の比率差

選択肢	実習無 n=256		実習有 n=585		z 値	p 値
	度数	%	度数	%		
1.	151	58	241	41.2	4.758	.000**
2.	76	29.7	307	52.5	6.107	.000**
3.	42	16.4	69	11.8	1.818	.069
4.	77	30.1	231	39.5	2.606	.009**
5.	49	19.1	392	67	12.791	.000**
6.	33	12.9	406	69.4	15.097	.000**
7.	30	11.7	49	8.4	1.520	.126
8.	0	0	3	1	1.148	.251
9.	5	2	9	2	0.433	.665
10.	14	5.5	49	8.4	1.474	.141
11.	30	11.7	135	23.1	3.817	.000**
12.	16	6.1	26	4.4	1.106	.268
その他	3	1.2	4	0.7	0.717	.489

** $p < 0.1$

実習対策のため」($z = 15.097, p = <.01$)で度数の差が顕著になる。

総じて、第1学年のうちは漠然とした興味や趣味としての視聴が中心であるが、学年が上がるに伴い、学習活動と自覚したうえで視聴が増加し、養成校で課された課題の遂行を補助するために活用されるようになって考えられる。とりわけ、現場実習との関連性は大きいとみられ、多数の学生が教材作成や実習対策のために保育関連動画を視聴していることが推測される。また、悩みの解消などのための視聴も上級学年、実習経験者で多くなる傾向がみられ、養成校等での学びを重ねる中で、彼らの抱える課題や不安が顕在化していく様相がうかがえる。

4. 保育関連動画の視聴内容

協力者がこれまでに視聴したことがある動画内容を整理したものが表10である(選択肢詳細は表3参照)。全学年を通して「5. 教材作成や壁面構成の解説・紹介」から「10. 絵本や読み聞かせに関する解説・紹介」にかけての具体的な活動や教材、児童文化財等の解説・紹介に関する内容に回答が集中している。次いで「16. 保育者の体験談」「17. 保育者の私生活について」「18. 保育者の労働環境について」といった保育者の仕事や生活の実情に関する動画がよく視聴されるほか、「3. 保育施設の特徴や実践の紹介」も平均して約17%が視聴した経験があると回答している。

以上の視聴内容の回答を、視聴理由の分析と

同様に得点化し、学校種・学年による差を検出するための一要因分散分析と多重比較(Tukey法)を行った。群別の得点の平均値と標準偏差は表10に示す。その結果、選択肢1, 2, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 13で差がみられた(表11)。ただし、選択肢1, 11, 13は多重比較では有意差が認められなかったため考察は保留する。

「2. 保育の制度や政策について」では、短大1年生が同2年生より多い傾向が示された($F(5, 365) = 2.447, p = .033$)。初年次は「保育原理」など保育の制度や基礎理論に関する授業が多く、それらとの関連が考えられるが、四大生の間では同様の差は認められず、部分的な結果とも考えられる。「4. 地域の保育・子育て支援に関する情報」は四大1年生が四大4年生以外の群より得点が高かった($F(5, 365) = 4.866, p = .000$)。調査対象の四年制大学の一つでは、実習園の選定のために1年次に自宅から通える園を調べさせており、そうした取り組みの影響が考えられる。他方、就職等を控えた最高学年で視聴が増える傾向は認められなかった。

上記以外で、学校種・学年別の群間差がみられたのは「5. 教材作成や壁面構成の解説・紹介」($F(5, 365) = 31.083, p = .000$)、「6. 手遊びの解説・紹介」($F(5, 365) = 34.573, p = .000$)、「7. 運動遊びやごっこ遊びの解説・紹介」($F(5, 365) = 14.824, p = .000$)、「8. 製作活動に関する解説・紹介」($F(5, 365) = 36.633, p = .000$)、「9. 歌や楽器に関する解説・紹介」($F(5, 365) = 2.852, p = .015$)、「10. 絵本や読み聞かせに関する解説・紹介」($F(5, 365) = 21.464, p = .000$)と、いずれも教材や保育技術の解説・紹介動画である。基本的に、各第1学年より上の学年で得点が高く、第2学年以上で実践的・実技的内容への需要が増加する可能性がある。

視聴内容についても、実習経験の有無による比率差の検定を行い、9つの選択肢で差が認められた(表12)。「1. 子どもの発達や学習についての解説」($z = 3.607, p = <.01$)と「2. 保育の制度や政策についての解説」($z = 2.482, p = <.05$)では、実習無群で割合が高かった。先にも述べた通り、これらは養成課程の序盤に事前知識として学習する内容と対応しており、そうした特徴が反映されたことが一因と考えられる。

「5. 教材作成や壁面構成の解説・紹介」($z = 8.533, p = <.01$)、「6. 手遊びの解説・紹介」($z = 9.880, p = <.01$)、「7. 運動遊びやごっこ遊びの解説・紹介」($z = 5.388, p = <.01$)、「8. 製作

表10. 学校種・学年別の保育関連動画の視聴内容の度数・平均値・標準偏差

選択肢	短大1年 n=215				短大2年 n=249				四大1年 n=115				四大2年 n=131				四大3年 n=101				四大4年 n=30			
	度数	比率	M	SD	度数	比率	M	SD																
1.	31	14.4%	0.14	0.352	19	7.6%	0.08	0.266	16	13.8%	0.14	0.348	10	7.6%	0.08	0.267	7	6.9%	0.07	0.255	1	3.3%	0.03	0.183
2.	19	8.8%	0.09	0.284	6	2.4%	0.02	0.154	4	3.4%	0.03	0.184	8	6.1%	0.06	0.240	3	3.0%	0.03	0.171	2	6.7%	0.07	0.254
3.	42	19.5%	0.20	0.397	37	14.9%	0.15	0.356	25	21.6%	0.22	0.414	22	16.8%	0.17	0.375	15	14.9%	0.15	0.357	5	16.7%	0.17	0.379
4.	8	3.7%	0.04	0.190	9	3.6%	0.04	0.187	18	15.5%	0.16	0.365	7	5.3%	0.05	0.226	6	5.9%	0.06	0.238	2	6.7%	0.07	0.254
5.	57	26.5%	0.27	0.442	130	52.2%	0.52	0.501	14	12.1%	0.12	0.328	77	58.8%	0.59	0.494	74	73.3%	0.73	0.445	19	63.3%	0.63	0.490
6.	144	67.0%	0.67	0.471	239	96.0%	0.96	0.197	59	50.9%	0.51	0.502	118	90.1%	0.90	0.300	90	89.1%	0.89	0.313	29	96.7%	0.97	0.183
7.	47	21.9%	0.22	0.414	143	57.4%	0.57	0.495	54	46.6%	0.47	0.501	68	51.9%	0.52	0.502	54	53.5%	0.54	0.501	11	36.7%	0.37	0.490
8.	73	34.0%	0.34	0.475	193	77.5%	0.78	0.418	29	25.0%	0.25	0.436	71	54.2%	0.54	0.500	72	71.3%	0.71	0.455	25	83.3%	0.83	0.379
9.	93	43.3%	0.43	0.497	105	42.2%	0.42	0.495	32	27.6%	0.28	0.450	60	45.8%	0.46	0.500	52	51.5%	0.52	0.502	13	43.3%	0.43	0.504
10.	42	19.5%	0.20	0.397	117	47.0%	0.47	0.500	35	30.2%	0.30	0.462	82	62.6%	0.63	0.486	64	63.4%	0.63	0.484	15	50.0%	0.50	0.509
11.	6	2.8%	0.03	0.165	22	8.8%	0.09	0.284	3	2.6%	0.03	0.160	11	8.4%	0.08	0.278	4	4.0%	0.04	0.196	3	10.0%	0.10	0.305
12.	7	3.3%	0.03	0.178	4	1.6%	0.02	0.126	5	4.3%	0.04	0.205	4	3.1%	0.03	0.173	5	5.0%	0.05	0.218	3	10.0%	0.10	0.305
13.	23	10.7%	0.11	0.310	9	3.6%	0.04	0.187	13	11.2%	0.11	0.318	15	11.5%	0.12	0.320	5	5.0%	0.05	0.218	5	16.7%	0.17	0.379
14.	14	6.5%	0.07	0.247	9	3.6%	0.04	0.187	6	5.2%	0.05	0.223	8	6.1%	0.06	0.240	5	5.0%	0.05	0.218	4	13.3%	0.13	0.346
15.	12	5.6%	0.06	0.230	8	3.2%	0.03	0.000	9	7.8%	0.08	0.270	8	6.1%	0.06	0.240	9	8.9%	0.09	0.286	2	6.7%	0.07	0.254
16.	61	28.4%	0.28	0.452	76	30.5%	0.31	0.461	33	28.4%	0.28	0.454	40	30.5%	0.31	0.462	34	33.7%	0.34	0.475	11	36.7%	0.37	0.490
17.	46	21.4%	0.21	0.411	33	13.3%	0.13	0.340	22	19.0%	0.19	0.395	17	13.0%	0.13	0.337	12	11.9%	0.12	0.325	5	16.7%	0.17	0.379
18.	34	15.8%	0.15	0.366	22	8.8%	0.09	0.284	16	13.8%	0.14	0.348	18	13.7%	0.14	0.146	8	7.9%	0.08	0.271	6	20.0%	0.20	0.407
19.	16	7.4%	0.07	0.263	13	5.2%	0.05	0.223	11	9.5%	0.10	0.295	5	3.8%	0.04	0.192	5	5.0%	0.05	0.218	3	10.0%	0.10	0.305
その他	3	1.4%	0.01	0.118	3	1.2%	0.01	0.109	3	2.6%	0.03	0.160	1	0.8%	0.01	0.087	4	4.0%	0.04	0.196	0	0.0%	0.00	0.000

表11. 学校種・学年別の保育関連動画の視聴内容の度差

選択肢	要因	df	SS	MS	F 値	p	多重比較 (Tukey)
1.	クラスタ 残差	5 835	1.037 74.573	0.207 .089	2.323	.041*	有意差なし
2.	クラスタ 残差	5 835	0.576 39.902	0.115 .047	2.447	.033*	短2<短1
4.	クラスタ 残差	5 835	1.332 45.696	0.266 .055	4.866	.000**	短1 ≒ 短2 ≒ 四2 ≒ 四3<四1
5.	クラスタ 残差	5 835	32.535 174.802	6.507 .209	31.083	.000**	短1 ≒ 四1<四2 ≒ 四3 ≒ 四4, 短1 ≒ 四1<短2, 短2<四3
6.	クラスタ 残差	5 835	22.433 108.361	4.487 .130	34.573	.000**	四1<短1<短2 ≒ 四2 ≒ 四3 ≒ 四4
7.	クラスタ 残差	5 835	16.958 191.042	3.392 .229	14.824	.000**	短1< ≒ 四1 ≒ 四2 ≒ 四3 ≒ 短2
8.	クラスタ 残差	5 835	37.437 170.666	7.487 .204	36.633	.000**	短1 ≒ 四1<四3 ≒ 四4 ≒ 短2, 短1 ≒ 四1<四2 四2<四4 ≒ 短2
9.	クラスタ 残差	5 835	3.445 201.704	0.689 .242	2.852	.015*	四1<四2 ≒ 四3
10.	クラスタ 残差	5 835	23.364 181.785	4.673 .218	21.464	.000**	四1 ≒ 短1<短2<四2 ≒ 四3, 短1<四4
11.	クラスタ 残差	5 835	0.717 45.428	0.143 .054	2.634	.023*	有意差なし
13.	クラスタ 残差	5 835	1.227 62.946	0.245 .075	3.256	.006**	有意差なし

**p < 0.1 *p < 0.5

活動に関する解説・紹介」(z = 8.276, p = <.01), 「9. 歌や楽器に関する解説・紹介」(z = 2.132, p = <.05), 「10. 絵本や読み聞かせに関する解説・紹介」(z = 7.292, p = <.01), 「11. 行事の内容や計画の解説・紹介」(z = 2.212, p = <.05)

では、全て実習有群で多い結果となった。以上には、個別具体的な保育内容あるいは保育教材の紹介・解説という共通点がある。現場実習では、幅広い子どもや実習形態を想定し、臨機応変に部分実習や責任実習を行うことが求められる

表12. 実習経験の有無による視聴内容の比率差

選択肢	実習無 n=256		実習有 n=585		z 値	p 値
	度数	%	度数	%		
1.	40	15.6	44	7.5	3.607	.000**
2.	20	7.8	22	3.8	2.482	.013*
3.	53	20.7	93	15.9	1.693	.090
4.	19	7.4	31	5.3	1.198	.231
5.	59	23.1	321	53.3	8.533	.000**
6.	159	62.1	530	90.6	9.880	.000**
7.	79	30.9	298	50.9	5.388	.000**
8.	86	33.6	377	64.4	8.276	.000**
9.	94	36.7	261	44.6	2.134	.033*
10.	60	23.4	295	50.4	7.292	.000**
11.	8	3.1	41	7	2.212	.026*
12.	10	3.9	18	3.1	0.617	.537
13.	26	10.2	44	7.5	1.273	.203
14.	19	7.4	27	4.6	1.647	.099
15.	15	5.9	33	5.6	0.126	.9
16.	67	26.2	188	32.1	1.732	.083
17.	48	18.8	87	14.9	1.410	.158
18.	32	12.5	71	12.1	0.148	.882
19.	19	7.4	34	5.8	0.884	.376
その他	5	2	4	0.7	1.646	.099

**p < 0.1 *p < 0.5

る。また、短期間のうちに教材を準備・作成したり、壁面構成の製作を任せられたりすることもあり得るだろう。そうした際に、映像や音声を伴った模範が手軽に得られる動画の有用性は大きいと考えられる。見方を変えれば、実習経験者の多くが、上記のような動画を視聴しなければならぬ状況に至っているともいえる。

総合して、全体的に教材や保育内容などの解説・紹介動画がよく視聴されているが、そうした傾向は、養成課程の進行と実習経験によってより鮮明になる。これらは、学生らの学習内容がより実践的、応用的なものへと変容していることを反映するとともに、養成校の授業だけでは充足できない課題の出現を示唆しているとも考えられる。実際問題、実習等では教員から直接的な指導を受けられない状況で、指導案の作成等に迫られることもあるだろう。紹介・解説動画の次点に、保育者の実生活等に関する動画が視聴されていることも踏まえ、学生らは、養成校では学びきれない内容を補完するために動画を視聴している可能性がある。

5. 印象的なチャンネルや動画内容

257名から特に印象に残っているチャンネル名があげられた（複数回答含む）。これらを実際に「YouTube」で確認し、チャンネルの説明となる「概要」の記載事項や「人気順」ソートで表示される動画の傾向、リンクされたSNS等の内容などに基づいて分類したものが表13である。学術論文としての性質を考慮し、個別具体的な内容、回答数の公表は考察上必要最低限の範囲に留める。また、表中の「子育て家族チャンネル」など、子どもの個人情報が開示されているチャンネルは回答例を示していない。加えて、あくまでも印象に残っているチャンネルであり、学生からの支持率や情報の正確性を意味しない点に留意する必要がある。

回答は、保育経験者を自称する1名が常に出演し、手遊び・教材の紹介から自身の経験、ケース別の子どもや保護者への対応方法の紹介などを幅広く行う「保育者・元保育者による総合型チャンネル」に集中した（全235件）。回答理由をみると、うち95件が「様々な手遊びや保育教材を紹介していて勉強になるから」といった教材等に関する情報が得られるというもので、うち22件が「実習で使える手遊びや製作物の紹介をしているから」といった実習対策を含意したものであり、先の視聴理由、視聴内容の分析結果と傾向が一致する。

表13. 印象に残っているチャンネルの種類と具体例

1. 保育者・元保育者による総合型チャンネル（回答数計：235）	
回答例	【保育系 YouTube】moca ちゃん Time ふじこせんせい channel てい先生 【スケッチシアター】ぼんだ保育士なお先生
2. 手遊び・歌などの紹介チャンネル（回答数計：12）	
回答例	ボンボンアカデミー kokoroya ch Super Simple 日本語・童謡とこどもの歌 保育士バンク
3. 子育て家族チャンネル（回答数計：15）	
4. 企業・団体による総合型チャンネル（回答数計：5）	
回答例	保育 TV

上記のほか、投稿動画の大部分が楽曲や手遊びの紹介、教材の製作方法の解説である「手遊び・歌などの紹介チャンネル」、「企業・団体による総合型チャンネル」が回答にあがった。その理由は「気軽に保育の教材や歌を知ることができるから」などであり、先述の総合型チャンネルをあげた理由と重なっていた。

また、保護者が子どもの成長や生活状況を発

信する「子育て家族チャンネル」をあげる回答もあった。本研究の定める保育関連動画の定義から若干外れる内容を含んではいるが「子どもがかわいく保護者の対応が勉強になるから」、「子どもの成長を感じることができるから」といったように、保育の知識・技能と関連付けた理由付けもみられた。

現時点で、各チャンネルの動画の質やより詳細な特性を踏まえた考察は困難であるが、印象的としてあげたチャンネルにおいても、具体的な遊びや歌の紹介、教材作成の方法を解説する内容、あるいは実習対策となり得る内容が含まれており、保育関連動画に対する協力者らの要求は一貫しているといえる。

IV. 総合考察

以上を踏まえ、今日の保育者志望学生の学習活動の在り方とニーズについて考察するとともに、保育者養成上、保育学上の展望を提示する。

1. 保育者志望学生の学習状況とニーズ

保育者を志望する学生の多くが、「YouTube」の保育関連動画の視聴経験を有することがわかった。また、保育関連動画の視聴理由および視聴内容の傾向は、学年や実習経験の有無と関連することが示唆された。

保育者を目指す学生が、自発的に関連する動画を視聴することは自然な成り行きといえる。しかし、協力者らに特に目立った視聴理由は、授業の課題作成、教材作成、実習対策といった養成課程における実技的課題と重なるものであり、内容的にも手遊びや歌、絵本などについての具体的な解説・紹介動画が全体を通して多く視聴されていた(表7, 表10)。そうした傾向は、応用的な授業、現場実習及びその関連授業の割合が増す各第2学年以降で顕著であり(表8, 表11)、保育関連動画全般の視聴経験の程度も第2学年以上で高くなっている(表6)。学生らにとって、インターネット上の保育関連動画は、養成校での実技的学習を補完する、あるいは授業や実習で求められる課題に対応するための資料として機能しており、各課程における学習を実質的に支援していると考えられる。

学生らが手遊びなどの具体的な解説・紹介動画を視聴する一因には、いつでも繰り返し資料可能であり、音声や映像を伴った具体的な情報に対するニーズがあると考えられる。渡邊(2021)は、実習では「手遊び」や「絵本の読み聞かせ」が、特に課せられやすい題材である

としている。加えて、現場の実習指導者は、以上を含む主活動等において「可能な限り実習生が考えてきたものを行う」ことを求めることを明らかにしている。したがって、実習では、養成校の教員や友人から離れた状況のなか、限られた準備期間で自身の実践を組み立てることに迫られる。他方、季節の歌や手遊びなどに関して、養成校ではレパトリーや実践力を重視した指導が行われているが、現場が求める水準に達することは容易ではないことも明らかにされている(三宅ら, 2019)。現実的に、一度の授業で技術の習得を図ることに限界があるといえる。

保育者養成課程においては、学生らが学内外、授業時間内外を問わず、知識や技能について反復的に学習できる環境作りが必要である。具体的には、模範動画の配信を行った例(扶瀬, 2021)を踏まえ、必要性の高い学習内容を抽出し、アーカイブ化していくことなどが考えられる。

加えて、保育者の体験談や私生活、労働環境に関する動画にも一定数の需要がある(表10)。動画のなかには「ブラック保育」などセンセーショナルな表現を含むものも見られ、そのような養成校の授業等では得難い情報にも関心がもたれている可能性がある。

2. 保育者養成および保育・幼児教育学の展望

「YouTube」上の保育関連動画は、実習や養成校における学生らのニーズに合致し、学習活動を実質的に支援している。一度浸透したツールを排除することは困難であり、より有効な活用方法を模索する段階にあると考える。保育関連動画には、子どもの年齢を考慮しない動画や権利上問題のある動画も散見される(児嶋, 2021)。したがって、保育者養成においては、基本的なインターネットリテラシーのほか、学生が適切な動画にアクセスするための検索キーワード、情報の不完全性に気付くための基礎知識や判断基準を指導する方法を確立し、実践していくことが急務である。一方で、先に述べた学内外を問わない反復的な学習環境を早期に実現するうえで、オンライン上に存在する既存の動画を有効活用し、養成校の学習内容と有機的に組み合わせることが有効といえる。教員が必要な動画をデータベース化したり、信頼できる投稿者を紹介したりすることで、学生の主体的な学習活動の質を高める可能性がある。

さらに、保育技術や児童文化財の情報、脚色

されたものやネガティブなものを含む現場の情報などが、大手動画配信サービスおよび一配信者を介して保育者志望学生らに流布されているという事実は、学術的にも重要な意味を持つと思われる。既に、一部の手遊び歌がインターネット上で形態変化しているように（児嶋，2021），種々の保育教材が動画配信サービスというフィルターを通して発信され，現場に浸透する可能性がある。また，動画が保育者のキャリアに関する諸選択に作用すること，保育の思想や理論を拡散することもあり得る。今後，保育・幼児教育学の研究において，インターネット上の動画という新たな情報の経路は無視できない存在となる。同時に，媒体の有用性や問題点を明らかにしたり，必要に応じて質を判断する基準を開発したりといった試みも求められるといえよう。

3. 本研究の課題と限界

本研究では，学生らの保育関連動画の視聴理由・視聴内容を網羅的に捉えるため，該当するか否かの二択形式の質問を採用した。その結果，全体的な理由・内容の傾向と学校種・学年別の傾向を捉えることができたが，それぞれの程度を捉え，学生の学習活動がどの程度動画に依存しているかなどを捉えるには至っていない。また，保育関連動画の視聴状況について，養成校の授業や現場実習との関連が示唆されたが，養成機関ごとの実習時期や指導方針，規模などによる影響を分析できていない点も課題である。

引用文献

東京工業大学（2021）新入生の「インターネットコミュニケーションツール」利用実態調査。 <https://www.teu.ac.jp/press/2021.html?id=92>（情報取得：2023/1/25）
日経BPコンサルティング（2021）高等教育におけるオンライン教育実態基礎調査。 <https://consult.nikkeibp.co.jp/info/news/>

2021/0805ub/（情報取得：2023/1/25）
橋本聡子（2021）保育者養成校における領域「表現」の授業に関する考察：遠隔授業においてICTを活用した学生協働造形等演習事例。 淑徳大学短期大学部研究紀要， **63**， 67-75。
葛西健治（2021）子どもの歌のピアノ弾き歌い指導におけるオンラインレッスンの試み：コロナ禍の授業実践における成果と課題， こだも教育宝仙大学紀要， **12**， 1-16。
扶瀬絵梨奈（2021）非対面型授業における弾き歌い学習支援の成果と課題。 名古屋柳城短期大学研究紀要， **42**， 133-151。
高橋一夫・佐藤智恵・山口香織・北野富美子（2022）情報活用能力を活かした保育実習指導の在り方について：新しい生活様式下における保育者養成の模索。 神戸親和女子大学教職課程・実習支援センター研究年報， **5**， 93-101。
長嶺章子（2020）ソーシャルメディアによる手あそび歌の情報拡散における問題点。 植草学園短期大学紀要， **21**， 17-24。
荻原啓文・浅見正人・加茂智彦・湯口聡・旭竜馬・対馬栄輝（2021）脳卒中のリハビリテーションに関するYouTube動画の質。 理学療法学， **48**(4)， 440-445。
児嶋輝美（2021）インターネットで配信される創作手遊び歌の変化について：保育教材としての検討。 徳島文理大学研究紀要， **102**， 53-66。
渡邊望（2021）教育実習（幼稚園）の現状と課題：21世紀型資質・能力を培う保育に向けて。 こだも学研究， **3**， 23-34。
三宅浩子・早川純子・井上浩義・中池順子・中村佳代子（2019）保育者に求められる音楽力を培う連携を目指して：現場と養成校・協働研修の意義と成果。 宮崎学園短期大学紀要， **11**， 94-106。